

H28新井南小学校5年生だよ!

おひさま

No. 13 H28. 5. 26

イネ! キラリと光る、心のノート

春から「心のノート」という、振り返りノートを作っています。心のノートは、出来事やしたことだけを書くのではなく、その時の自分の思いや気持ち、そして自分自身の成長の記録として書かためています。春から何回か書くにつれて、すばらしい記述も増えてきました。今回は、先週土曜日に行われた体育大会について振り返りました。その中のキラリと光る子どもたちの記述を紹介します。

「来年は、団長になって組全体をまとめるようにして、優勝したいです。それは、今まで全力で大きな声を出して、それにあこがれたからです。」(OK)

5年生には、運動会でがんばるとともに、来年の見本として6年生のがんばる姿をしっかりと見るように話しました。きっと康希さんは、6年生の団長二人のがんばる姿を見て、「来年こそは!」の思いを強くしたのでしょう。そこから、来年は自分があんな風になんばりたいという思いをもつことができました。

「リレーの白のチームで走りがいいなあと思った人が4年生のHさんと5年生のKMさんです。なぜかという腕の振りがよく前をしっかりと向いてバトンパスもよかったと思います。私もKMさんみたいに見本にできるようにがんばります。来年の運動会でも、リレーのバトンパスを意識してがんばります。」(KY)

リレー練習でなかなかバトンパスのうまいかなかったKYさんは、めあての中でもバトンパスを挙げていました。そんなKYさんだからこそ、友達の上質なバトンパスを逃さず見つけることができたのだと思います。来年はきっと下学年の見本となるバトンパスを見せてくれることでしょう。

運動会前「応援団長や、副団長にばかり任せないで、自分たちでもみんなをまとめたいです。特に、1年生は、小学校の運動会は、初めてなので、ちゃんと整列をさせたりしたいです。」

運動会后「最後に成績発表では、赤組が優勝で、白組が応援賞でした。白組は、応援や行動に力を入れていたので、優勝をとれなくても応援賞が取れて嬉しかったです。」(SH)

練習から応援団として白組を引っ張ってきたSHさんです。運動会前のめあてにも、やはり応援団としての心構えを挙げています。そんな応援団としてのSHさんだからこそ、運動会の勝ち負けよりも、自分たちががんばってきた「応援賞」に価値を見出して喜びを感じることができたのだと思います。

「次はがんばりたいことを紹介します。1つ目は整列です。応援合戦の時、並ぶスピードが遅かったり、横の間隔が狭かったところです。そのため応援賞は取れませんでした。そこを直したいです。(中略)もし来年応援団長じゃなかったとしてもがんばって両方とりたいです。」(NS)

NSさんは、優勝できた喜びよりも、応援賞を取れなかった残念さを真っ先に挙げています。そして、自分なりにうまくいかなかったところを分析することができました。また、今年一生懸命応援団としてがんばると同時に、その大変さも知ったからこそ、「来年応援団長じゃなかったとしても」がんばりたいという思いをもつことができたのだと思います。

「私は応援団を初めてしました。そして白組はいろいろな工夫をしてきました。そして結果発表で応援賞白組と言われたときとても嬉しかったです。嬉しかった理由はいろいろな工夫をしてみんなで団結できたのでよかったです。」(FS)

実は、FSさんの最初の記述は、「優勝がとれなかったのでとても悔しかったです。でも赤組に応援賞は取られなくてよかったです。」でした。しかし、先述のSHさんの振り返りを聞き、自分たちががんばってきたことが思い出されたのでしょうか。友達の作文から自分自身の思いを再度振り返ることで、思いの深まりが感じられます。

「僕は、ガチンコリレーに出ました。だけど、最初の曲がりに足を踏まれ転びました。だけど、次に人にバトンを渡さないと遅れるのですぐ起きてバトンを渡しました。けがをしたけど最後のリレーは、がんばって走りました。」(MH)

ガチンコリレーでまさかの大転倒をしたMHさん。しかし、「仲間にバトンをつなぐ」という自分の役割をしっかりと自覚し、責任をもって役割を果たしたことが分かります。そして、当初はけがのためにリレーは走れないと言っていた陽人さん。しかし、運動会最後の種目のリレーに白チームの一員としてレースに戻ってきてくれました。どうして?と聞くと、「6年生が最後なので勝たせてあげたかった。」と、話してくれたMHさんでしたが、けがをして凹んでしまった自分自身の心に打ち勝つことができたからきっと走れたのだと思います。レースご感想には、

「最後まで悔いのない走りのできたのでよかったです。」(MH)

と、書かれていました。白チームは、最後の種目で見事優勝することができました。もし、その勝利をベンチで眺めていたとしたら、同じ白チームとして「悔い」が残ったのではないのでしょうか?レースを終えた仲間と同じ気持ちで喜べなかったのではないのでしょうか?とかく、小さなことでもくよくよしがちな今時の子どもたちです。まずは、自分自身の気持ちに勝つということが大切だということがよく分かりました。

子どもたちは振り返り作文を書くとき、よく、「〇〇して楽しかったです」「〇〇でよかったです」という表現をします。その「楽しい」「よかった」という気持ちがどこから来ているのか、何によってそうなったのか、しっかりと自分の気持ちを掘り起こし、分析してみることが次の成長につながるのではないのでしょうか。

これからも、みなみタイム(総合的な学習の時間)や行事を中心に、いろいろなことを「心のノート」に振り返ります。今日紹介したような、素晴らしい表現が増えてきたらいいなと思います。随時紹介していきたいと思います。